



高 校生のとき、「いかすバンド天国」という番組をよくみていた。毎週10組ほどのアマチュアバンドが登場し、勝者がイカ天キングとなる。BEGINは5週勝ち抜きグランドイカ天キングとなった数少ないバンドのひとつだ。この番組で初披露されたデビュー曲「恋しくて」は、私にとってはカラオケの持ち歌となった。沖縄に赴任してBEGIN愛が再燃し、ベストアルバムを何度も聞いている。「ちゅらさん」の再放送もみているが、沖縄料理屋のシーンの背後で常連客として登場するBEGINをみつけるのが楽しみのひとつだ。

そんなBEGINの「島人ぬ宝」は、曲も素晴らしいが、歌詞も考えさせられる。星や雲の名前はわからなくても、何度も見上げてきたこの空を誰よりも知っているという部分は、知識だけで沖縄を知ったつもりになってはいけないとの戒めのようだ。「汚れていくサンゴも、減っていく魚も、どうしたらいいのかわからない」(作詞・作曲：BEGIN 2002年「島人ぬ宝」より引用)という歌詞からは、沖縄も環境問題に直面していることを再認識させられる。

環境問題の要因といえば、かつてはもっぱら公害であったが、最近では気候変動への懸念が高まっている。多くの科学者は、二酸化炭素などの排出によって、気温が上昇すると予測している。気温上昇に伴い氷河が溶けるなどすれば、世界中の海面が上昇する。そうなれば、現在の沖縄の美しい砂浜は、失われてしまうかもしれない。また、二酸化炭素が海水に溶け込むことで海洋が酸性化すれば、サンゴなどの生態系に影響が及ぶ。さらに、台風や洪水の頻度や強度が高まるともいわれている。

自然科学のみならず、社会科学でも、気候

BEGINと気候変動



一上 響

ICHIEU Hibiki
日本銀行 那覇支店長

変動に関する研究が急増している。例えば、多くの研究は、不動産価格が海面上昇などのリスクを十分に反映していないとの結果を示しており、そのことが高リスク地域での開発につながっているとの指摘もある。そうした開発に金融機関が

融資を行えば、リスクが顕在化した際に金融危機をも誘発しかねない。こうした気候関連金融リスクには、日本銀行も関心を強めており、世界中の著名な学者や政策当局者を集めたオンラインのワークショップを主催する予定である(本稿の掲載時点には終了している)。私も沖縄赴任前から執筆してきた論文を、発表することになっている。

BEGINが「どうしたらいいのかわからない」と歌うように、気候変動への対応は容易なことではない。例えば、建設工事で二酸化炭素の排出を減らそうと思っても、建材の製造・運搬も含めた複雑な工程のなかで、どこでどれだけ二酸化炭素が排出されるのか把握するだけでも大変である。また、ある程度の気候変動を避けられないのであれば、これと共存していくことも必要であり、海面上昇の影響を受けにくい高台での開発を進めていくことなども考えられるが、こうした開発がかえって環境を汚染することがないか検討する必要もある。今後、困難が乗り越えられ、「島人ぬ宝」を守る取り組みが次々と進められていくことを期待したい。

(いちうえ ひびき)